

死刑廃止ニュース

死刑に関する事件と世界的な廃止への動きの概要

2006年 1月

AI Index: ACT 53/001/2006

2005年、イランで8人の未成年時犯罪者に死刑執行

2005年、イランでは少なくとも8人の未成年時犯罪者が処刑された。このうち2人は、死刑執行時にまだ18歳になっていなかった。

7月19日、18歳のアヤズ・Mと未成年のマハムード・Aがイラン北東部の都市マシヤドで公開絞首刑に処せられた。伝えられるところによれば、2人は13歳の少年に対する性的暴行の容疑で有罪判決を受け、2004年5月から拘禁されていたという。

8月23日、誘拐、強姦、窃盗で有罪となった17歳の少年（名前は不明）が4人の成人男性とともにバンダル・アッバスで処刑された。

7月13日、アリ・サファルプール・ラジャビが警官殺害の罪でポルドクフタルで絞首刑になった。彼は17歳であった2002年2月に死刑判決を受けたが、犯行時には16歳であった可能性がある。

21歳のファルシド・ファリギは、バンダル・アッバスの刑務所で絞首刑になった。彼は5件の殺人で有罪判決を受けたが、犯行時には14歳から16歳だったと伝えられている。

9月12日、強姦で有罪となった22歳の男性が南部のファルズで公開絞首刑に処せられた。彼は2000年に死刑判決を受けているので、犯行時には18歳未満だったことになる。

12月10日、ロスタム・タジクがイラン中央部のイスファハンで公開処刑された。彼は、2001年5月に16歳で犯した殺人の罪によってイスファハン一般法廷でキサー刑（被害者の家族のみが行なうことのできる報復刑）の判決を受けた。最高裁は繰り返し死刑判決を支持していたと伝えられている。

超法規的、即決または恣意的処刑に関する国連人権委員会特別報告者のフィリップ・アルストン氏は12月9日、イラン当局に対し次のように述べて死刑執行をやめるよう求めた。「実質的には世界中の他のすべての国が、子どもの犯罪に対して死刑を適用しないときっぱりと決めている中で、イランのしようとしていることは容認しがたい。未成年時犯罪者を死刑にしない義務があることは明白かつ疑いようもないものであるだけでなく、イラン政府自身が未成年時犯罪者の死刑を廃止すると宣言しているにもかかわらず、このような処刑が行なわれようとしていることに驚きを覚える。」

国連自由権規約と子どもの権利条約の締約国として、イランは18歳未満の時の犯罪に対する死刑の適用を行なわない義務がある。イランはこのような死刑を禁止するための立法を審議中であると主張しているが、実際には過去2年以上にわたって未成年時犯罪者の執行数は増加している。司法部門の報道官の最近のコメントによれば、新

法が成立しても、特定の犯罪についてのみ未成年時犯罪者の死刑を禁止することになるだけだという。

アムネスティは 2005 年にイランで 83 件の死刑執行を記録しているが、実際の数字ははるかに多い可能性がある。

米国：1977 年以降の死刑執行数が 1000 人を超える

米連邦最高裁が死刑を復活させた 1976 年以降、米国では 1000 人を超える男女が処刑された。平均すると 10 日に 1 人執行されていることになる。

この半年間で執行数は 30 人を超えるが、執行した州はアラバマ州、アーカンソー州、デラウェア州、ジョージア州、インディアナ州、メリーランド州、ミシシッピ州、ミズーリ州、ノース・カロライナ州、オハイオ州、オクラホマ州、サウス・カロライナ州、テキサス州である。このうちテキサス州では 11 人が処刑された。1000 人目の執行は 12 月 2 日、デラウェア州で行なわれた。

テキサス州では 9 月 14 日、フランシス・ニュートンが処刑されたが、有罪かどうかについて疑問があった。彼女は状況証拠をもとに有罪とされたが、一貫して無実を主張していた。フランシス・ニュートンは 1977 年以降米国で処刑された最初の黒人女性となった。

12 月には 5 件の執行があった。2 日にはサウス・カロライナ州でショーン・ハンフリーズが、ノース・カロライナ州でケネス・リー・ボイドが処刑された。6 日にはメリーランド州でウィズリー・E・ベイカーが処刑された。13 日にカリフォルニア州でスタンリー・トゥーキー・ウィリアムズが、14 日にはミシシッピ州でジョン・ニクソンが死刑に処せられた。

スタンリー・ウィリアムズのケースは米国内で広く関心を集め、死刑についての活発な議論が起こった。ウィリアムズは 1970 年代にロスアンジェルズで結成された悪名高き「クリップス」の創設者の一人で、1979 年に 4 人を殺害したとして死刑判決を受けた。獄中でウィリアムズは、自らの暴力に満ちた生き方を否定し、ギャング生活がいかに危険なものであるかを若者に警告することに生涯を捧げた。この功績により、ウィリアムズは過去 4 年連続でノーベル平和賞候補となり、今年は奉仕と市民参加に関する大統領審議会から表彰されていた。彼は最後まで無実を主張していた。

12 月 14 日に処刑されたジョン・ニクソンは 1986 年に契約殺人で有罪となった。ニクソンは執行時 77 歳で、1977 年に米国で死刑の執行が復活して以来最高齢での処刑となった。

米国：ポーツマス恩赦

1945 年にジョージア州で、雇用主を殺害して処刑されたレナ・ベイカーに対し、ジョージア州恩赦・仮釈放審査委員会が 8 月、正式に恩赦を決定した。決定によれば、彼女の場合は正当防衛だったため、より軽い罪で起訴されていた可能性もあるということである。単純な殺人罪なら平均して 15 年の刑となる。

無実で処刑される人の数はわからないが、誤判の可能性が高い事件は少なくとも 8 件ある。

その中には、殺人罪で逮捕されたテキサス州のルーベン・カンツとゲーリー・グラハムのケースがある。2 人は逮捕された時 17 歳であった。また同じくテキサス州のキ

ヤメロン・ウィリングハムは1992年に自宅の火事によって3人の我が子を殺したとして有罪となった。放火の専門家たちが、火事は放火ではなく事故だったという証拠を提出したにもかかわらず、ウィリングハムは2004年に処刑された。

詳しい情報は死刑情報センターのホームページを参照。

米国：減刑

8月29日、インディアナ州のミッチ・ダニエルズ知事は精神障害を理由に、1987年に死刑判決を受けたアーサー・ベイヤードの死刑を減刑した。

11月29日、ロビン・ロビットが米国で1000人目の死刑を執行される前日、バージニア州のマーク・ワーナー知事は、無実を証明したかもしれないDNAの証拠が破棄されたことを理由に、死刑を減刑した。

米国：無罪放免

2005年には2件の無罪釈放があった。1985年にオハイオ州で死刑判決を受けたデリク・ジャミソンは20年間の死刑囚生活の後、起訴が取り下げられた。ペンシルバニア州で1989年に死刑判決を受けたハロルド・ウィルソンはDNAの証拠があったために無罪釈放された。

1973年以降、無実が判明して釈放された人は122人である。

国際的な出来事

10月10日、第3回世界死刑廃止デー記念イベントが、オーストリアからジンバブエまで世界50カ国で行なわれた。

今年の死刑廃止デーは、死刑廃止に向かうアフリカに焦点が当てられた。数多くの人権上の問題があるにもかかわらず、アフリカの国々には近年廃止への潮流が大きくなってきている。2004年12月にはセネガルで、そして2005年9月にはリベリアで、すべての犯罪に対して死刑が廃止された。

死刑廃止デーのイベントを組織したのは死刑廃止世界連盟(WCADP)である。WCADPには人権団体、弁護士会、労働組合、地方当局など38の団体が加盟している。アムネスティなどの団体は、コンサート、フィルム上映、テレビ討論、ラジオ番組出演など多岐にわたるイベントを行なった(写真)。アフリカの53カ国のうち、13カ国が死刑を恒久的に廃止、20カ国が事実上廃止しており、過半数の国々にはもはや死刑を適用していないということになる。

死刑廃止を求める署名をした人の数は世界中で3万8000人を超えた。2006年1月、集められた署名はアフリカ連合の議長に提出され、アフリカの存置国の首脳には書簡が送られる予定である。

いのちの都市：11月30日には、イタリアの宗教団体である聖エディジオ共同体の呼びかけで行なわれる「死刑にノー」と言うためのイベントに死刑廃止団体が参加した。世界中の30の首都と300の都市でイルミネーションが行なわれた。カリフォルニア州バークレー、カナダの首都オタワ、ウルグアイの首都モンテビデオ、グルジア共和国のバトゥーミが初参加した。このイベントについての情報や写真は聖エディジオ共同体のホームページを参照。www.santegidio.org。

リベリアが死刑を廃止

チャールズ・テイラー前大統領が退任した後に発足したリベリア全国移行政府のジュード・ブライアント議長は9月16日、死刑の全面的廃止を定めている国連自由権規約の第二選択議定書を批准した。同政府は2004年9月に18の国際人権条約に署名あるいは批准していたが、今回の批准はそれに続くものとなった。リベリアでの最後の死刑執行は1980年代であった。

スーダン、憲法で未成年時犯罪者の処刑を容認

7月9日に成立した新暫定憲法では死刑を廃止せず、18歳未満の者にも死刑の適用を容認した。

憲法第36条2項には「18歳未満の者には死刑を適用しない。ただしハッド（報復）の場合を除く。」とある。ハッド刑は飲酒、窃盗、殺人などの広範囲の犯罪に適用されるため、条文の前半の文言は無意味なものとなっている。スーダンは、未成年時犯罪者の死刑を禁止している子どもの権利条約を批准しているため、この条文は条約違反である。

2003年にスーダン東部のブルーナイル州ダマジンで取引人を殺害したとして逮捕された時、ナグメルディン・アブダラは15歳だった。2003年6月にはブルーナイル州上訴裁判所が彼の上訴を棄却、2005年11月には最高裁で死刑判決が確定し、現在、いつ執行されるかわからない状態である。

インド大統領が死刑制度の改革を求める

インドのカラム大統領は憲法第72条にもとづいて特権を発動し、政府に対し約50名の死刑囚を減刑するよう求めた。この件での特権発動は2度目であるが、前回の恩赦勧告は、大統領恩赦のケースにあたらないうして内務省が差し戻した。

10月、カラム大統領は、死刑について議会で議論すること、包括的改革政策を作成することを公式に求めた。新たに最高裁長官の任命を受けたサベルワル判事も死刑廃止を支持すると表明、一人の市民として死刑廃止を支持し、最高裁長官として「これ以上ないくらい稀なケース」にのみ死刑を適用すると報道関係者に対して公式に語った。

インドでの最後の死刑執行は2004年8月で、すでに長く刑期をつとめていたにもかかわらず、カラム大統領はドゥハナンジョイ・チャタジーの恩赦申請を却下した。(2004年12月号の死刑廃止ニュースを参照)

グアテマラの米州人権裁判所が2件の判決

米州人権裁判所がグアテマラでの死刑の適用に関して2つの判決を出した。6月20日、フェルミン・ラミレス対グアテマラ事件で裁判所はグアテマラ国に対して、殺人

罪を規定している刑法第 132 条は適法ではなく公正な裁判を受ける権利の侵害であるとして同条項の改正を命じ、フェルミン・ラミレスの再審をして重大な誤判を訂正するよう命令した。

9月15日、ロナルド・エルネスト・ラスカコ・レイジェス対グアテマラ事件にも判決が出た。レイジェスは誘拐で死刑を言い渡されたが、これは死刑の適用範囲を拡大修正した法律による死刑判決であった。グアテマラはこの判決の前に、死刑の適用範囲の拡大を禁止している米州人権条約を批准していた。米州人権裁判所はグアテマラ国に対し、レイジェスの死刑判決を中止し、犯罪の性質と重大性にみあった別の刑罰を言い渡すよう命じた。さらに同裁判所は、グアテマラの現行法下での誘拐罪で死刑判決を受けた者を処刑しないよう命令した。

5月3日、死刑廃止法案が下院に提出された。下院の法務憲法問題委員会は法案の審議に45日間で結論を出すよう求められた。国際的な圧力にもかかわらず、7カ月たってもまだ結論は出ていない。

イラク：フセイン後、初の死刑執行

9月1日、武装団体のメンバー3人が絞首刑に処せられた。これはフセイン政権転覆後初めての死刑執行であった。

アフマド・アル＝ジャフ、ウダイ・ダウード・アル＝デュライミ、ヤシム・アッバスの3人は5月22日にバグダッド南東部にあるアル・クートの刑事法廷で死刑判決を受けた。罪状は誘拐、強姦、殺人であった。

2003年6月にイラク暫定統治機構(CPA)は死刑制度を停止したが、2004年6月の主権移譲後の8月8日、イラク暫定政権はこれを復活させた。10月、イラク国会は反テロ法を採択し、テロ関連犯罪に死刑の適用が拡大された。1月の選挙で大統領となったジャラル・タラバニは死刑に反対し、死刑判決に署名するのを拒否したと伝えられているが、2人の副大統領も死刑判決に署名する権限を持っている。今年イラクでは少なくとも50人が死刑判決を受けた。

バルバドス、初の死刑事件を新法廷へ

バルバドスのミア・モトレ司法長官は、上訴裁判所での2件の死刑判決の減刑を求めて、カリブ海諸国裁判所に上訴することにしたと、トリニダード・トバゴでの会議で述べた。これまでは、バルバドスの終審裁判所はロンドンの枢密院法務委員会であったが、カリブ海諸国裁判所はそれにかわるものとして4月にトリニダード・トバゴのポート・オブ・スペインで設立された。

2002年、レノックス・リカルド・ボイスとジェフリー・ジョセフが殺人罪で死刑判決を受けた。6月、バルバドス上訴裁判所は、2人が米州人権裁判所での審理を待つ時間を考えて、死刑を終身刑に軽減した。その理由は、1993年のプラット対モーガン事件で枢密院法務委員会が、刑務所で5年間服役した者を処刑するのは憲法違反であると評決したからである。バルバドスでの最後の死刑執行は1984年である。

日本の新法相、「執行命令書にサインしない」

杉浦正健法務大臣は10月31日の就任記者会見で、死刑執行命令書にサインしないと表明した。同法務大臣は「文明論的に言えば、方向としては長いスパンをとれば（死刑制度は）廃止の方向に向かうと思う」と述べた。

その直後、法相はこの発言を撤回し「発言は個人としての信条を吐露したもので、法の番人としての法務大臣の職務の執行について述べたものではない」とするコメントを発表した。

2005年9月26日、堀江守男被告が最高裁で死刑判決を言い渡された。彼は重度の精神障害であり、判決の意味が理解できないと言われているにもかかわらず、死刑判決が言い渡された。この判決は日本の刑事訴訟法に反するものと思われる。同法では、被告人が「精神的に健康でない」場合は裁判は停止されると規定されているからである。

堀江守男は老夫婦殺害と強盗で起訴された。1993年に病気のため裁判が停止されたが、1997年に被告人は裁判能力があると認定されて翌年裁判が再開された。

中国、最高裁が死刑判決の見直しを再開

中国最高人民法院の万鄂湘副院長は9月27日、最高人民法院がすべての死刑判決の見直しを行なう権限を復活させ、そのために3つの新たな裁判所を創設すると宣言した。下級審では裁判の過程への政治の介入が当然のこととして容認されている中で、万鄂湘副院長は、この改革は「死刑事件の裁判手続が行政省庁から完全に中立であることと、他の権力の介入の防止を保証するものである」と述べた。

ルイーザ・アルブール国連人権高等弁務官は8月末に中国を訪問し、法務大臣および最高人民法院院長と会談した。アルブール高等弁務官によれば、中国は数々の主要人権条約を批准しているにもかかわらず死刑の適用を拡大し、「最も重大な犯罪」の国際基準に満たない犯罪にも死刑を適用しているという。またアルブール高等弁務官は中国には死刑に関する信頼できる統計がないことを懸念し、「死刑問題について、人びとが情報を得た上で議論するためには情報の透明化が不可欠である」と述べた。

中国では約68の犯罪に死刑が適用されているが、その中には脱税、国有財産の横領、収賄などの非暴力犯罪も含まれている。

中国：執行された囚人の臓器の売買を認める

執行された囚人の臓器売買について、当局は長い間否定してきたが、黄潔夫副衛生相は12月、死刑に処せられた人の臓器の売買が広く行なわれていることを認めた。

死刑の執行方法が銃殺から薬物注射に変更になった1990年代末以降、「移動処刑車」での死刑執行に立ち会った医療関係者から、死後できるだけ速やかに臓器を取り出したとの報告があった。黄潔夫副衛生相は中国の経済誌「財経」に対し、営利目的の臓器取引を禁止するための新法案を現在作成中であると述べた。

シンガポール、薬物売買で処刑

25歳のベトナム系オーストラリア人、ヴァン・トゥオン・グエンは、国際的な助命嘆願運動にもかかわらず、12月2日にシンガポールで絞首刑に処せられた。彼は2002年12月にカンボジアからオーストラリアへ行くトランジットの際に、ヘロインを約400グラム所持しているのを警察にみつかかり、シンガポールのチャンギ国際空港で逮捕された。

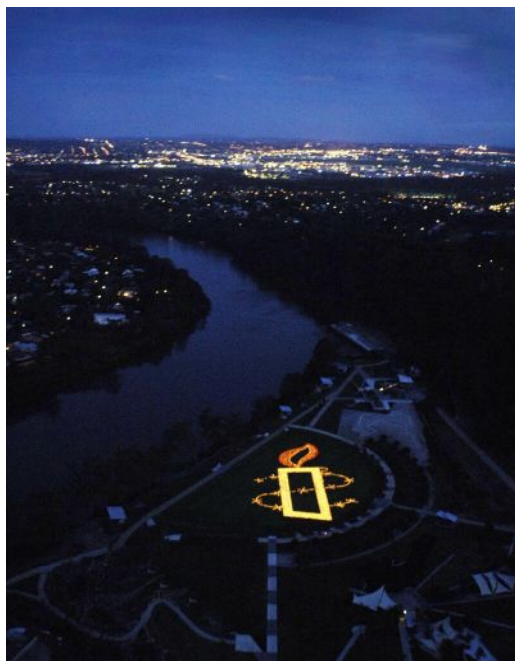
ヴァン・トゥオン・グエンは薬物不正使用法により死刑判決を受けた。この法律では、15グラムを超えるヘロインを売買したことで有罪となった者には絶対刑として死刑が規定されている。

この事件はオーストラリアでも、また国際的にも、そして、めったにないことだが、シンガポール国内でも、多大な関心を集めた。超法規的、即決または恣意的処刑に関する国連特別報告者はシンガポール政府に対し、「裁判官の裁量の余地のない絶対刑として死刑を適用することは、減刑や情状酌量の考慮を不可能にし、裁判官はケースごとに適切な判決を下すことができない。」と述べ、ヴァン・トゥオン・グエンを処刑しないよう求めている。

バチカンもシンガポールのナージン大統領に対し、法王ヨハネ・パウロ二世および法王ベネディクト16世の名において、ヴァン・トゥオン・グエンの恩赦を求めた。シドニーのカトリック司教、ジョージ・ペル枢機卿は「ヴァン・トゥオン・グエンに対する刑罰は、彼の犯した罪に比べてあまりにも重い」と延べ、処刑に遺憾の意を表明した。

処刑前の数カ月間、オーストラリア全土で「希望の灯」と呼ばれる集会が開かれ、恩赦を求める数千のアピールがシンガポール政府に届けられた。

シンガポールでは1991年以降420人が処刑されたが、その大部分は薬物売買である。シンガポールの死刑執行率は世界で最も高い。



ブリスベンにあるリバーロック・パークで、オーストラリア人のヴァン・トゥオン・グエンの恩赦を求める「3000の希望の灯」というイベント。ヴァン・トゥオン・グエンは12月2日、シンガポールで処刑された。ろうそくの形を創作したのはアルゼンチン人の芸術家、ホルヘ・プジョル。

短いニュース

カナダ

11月25日、カナダは自由権規約の第二選択議定書を批准した。ピエール・ペティグルー外務大臣とアーウィン・コトラー法務大臣が議定書への加入を発表し、「この議定書の締約国となったことは、死刑という重要な人権問題に対するカナダからの明確なメッセージである。カナダは死刑に反対し、廃止のための国際的な流れを支持する。私たちはすべての死刑存置国に対し、死刑を廃止するか、執行を停止し、第二選択議定書の締約国となることを求める。」と述べた。

カナダでの最後の死刑執行は1962年であった。

ヨルダン

ヨルダンのアブドラ国王がイタリアのコリエール・デラ・セラ新聞のインタビューに答えた記事が11月16日に同紙に掲載された。その中で国王は「欧州連合にあわせて刑法を改正したいと思う。ヨルダンはまもなく、中東で初めての死刑のない国になる可能性がある。」と述べた。

またアブドラ国王は、11月9日にアンマンで起きた自爆テロとの関連で女性が拘束された件についても質問に答えた。この事件はヨルダン人のアブ・ムサブ・ザルカウイが率いる、イラクに本拠地を置く武装グループが犯行声明を出している。

クウェート

10月2日、首都クウェートシティで4人の男性が公開絞首刑に処せられた。薬物売買の罪であった。2つの上訴裁判所と、サバーハ首長が死刑判決を支持した。

1995年に薬物売買に死刑が適用されてから、10人がこの罪で処刑されている。

メキシコ

死刑を全面的に廃止するための憲法改正が12月9日に下院で成立し、同日、国営新聞で公表され正式に発効した。(2005年6月の死刑廃止ニュースを参照)

モナコ

11月30日、欧州人権条約第6議定書と第13議定書を批准した。モナコは1962年に死刑を全面的に廃止している。最後の死刑執行は1847年であった。

韓国

11月16日、韓国国会は総会で、最高裁判所の13人の判事のうちの3人を新たに指名した。11月9日から15日にかけて、国会で人事聴聞会が行なわれ、朴時煥、金知衡、金滉植の3人の候補は死刑に関する自らの立場を次のように語った。

朴時煥は「死刑を廃止する方向で法律を見直したほうがよいと思う」と述べ、金知衡は「死刑の廃止についてはもっと積極的に審議すべきである」と言った。また金滉植は「私は個人的には死刑廃止論者であるが、判事としては、世論を含めて考慮すべきことがあるのもまた事実である」とした。

韓国では1997年12月に金大中が大統領に選ばれて以降、死刑の執行停止が続いている。

トンガ

この太平洋の島国で、20年ぶりに殺人で有罪判決を受けたテビタ・シアレ・ボラ死刑囚が11月10日、終身刑に減刑された。最高裁長官のロビン・ウェブスター判事は判決の中で海外の判例や人権基準を引用し、「死刑は他の刑罰を選択することが問答無用なほどの稀有なケースにのみ適用されるべきである」と結論した。

ウズベキスタン

カリモフ大統領は8月1日、2008年1月1日をもって死刑を廃止すると規定した政令に署名した。

この政令によれば、2006年1月1日までに法務大臣、最高裁判所、検事総長が、死刑の廃止を視野に入れて、刑法、刑事訴訟法、行政法の改正案を提出することになっている。政府の主要機関もまた、国民に対して死刑問題について説明する方策を実施するよう求められている。しかし、死刑の執行停止がすぐに実行され、すべての主だった死刑判決が減刑されなければ、2008年1月までにかかなり多くの人びとが不公正な裁判で死刑判決を受け処刑されてしまいかねない。(2005年9月のアムネスティの報告書『Uzbekistan: Questions of life and death cannot wait until 2008. A briefing on the death penalty』を参照)

イエメン

12月6日、フアド・アリ・モーセン・アル＝シャハリが銃殺刑に処せられた。彼は弁護士であり、また野党社会党の元党员であったが、1996年に起きた銃撃戦で与党国民全体会議党の党员を殺害した罪で同年死刑判決を受けた。

フアド＝アル・シャハリは事件への関与を否定し、拷問されて自白したと主張していた。

死刑に関する統計

廃止国と存置国

全面的に廃止・・・・・・・・・・86

通常犯罪のみ廃止・・・・・・・・11

事実上廃止・・・・・・・・・・25

廃止国合計・・・・・・・・・・122

存置国・・・・・・・・・・74

国際条約

2005年に**死刑廃止条約**を批准したのはリベリアとカナダで、批准国は56カ国となった。

モナコが11月30日に**欧州人権条約第6議定書**を批准し、批准国は45カ国となった。

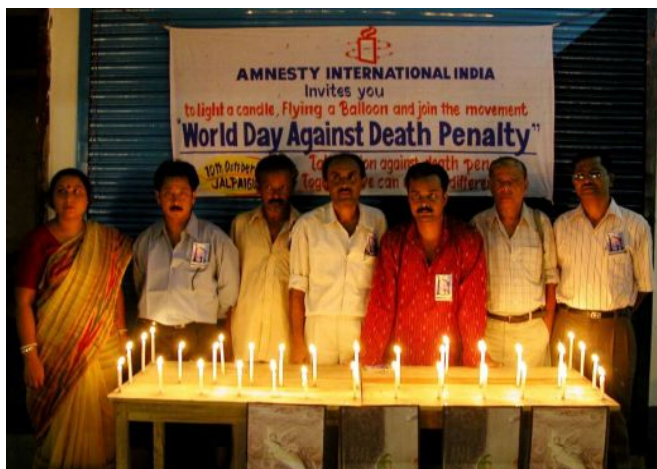
ギリシャ、モナコ、ノルウェー、スロバキアが**欧州人権条約第13議定書**を批准し、批准国は33カ国となった。

署名国と批准国のリストは**アムネスティ**のホームページで見ることができます。

世界中で行なわれた死刑に反対するイベントの写真（2005年10月－12月）



アムネスティ香港、「いのちの都市－死刑に反対する都市」の集会© AI



インド、西ベンガル州ジャルパイグリのアムネスティのメンバー、世界死刑廃止デーにキャンドル集会© AI



アムネスティ・オランダ、米国で1000人目の死刑執行に際して米国大使館前で抗議 © AI/ Ilya van Marle



アムネスティ・モロッコ、他の NGO とともに世界死刑廃止デーにデモ行進 © Rachid Tniouni

（森本 真由美 訳）